

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

病害虫発生予察注意報第3号

作物名：早植え及び普通期水稻
病害虫名：葉いもち及び穂いもち

1) 注意報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年及び前年より多い

2) 注意報発令の根拠

- (1) 8月1日～5日に実施した普通期水稻の巡回調査（48圃場）では、葉いもちの発生圃場率45.8%、発生株率15.6%（平年7.8%、前年15.9%）であり、平年よりやや多く多発生した前年並である（図1, 写真1～2）。
- (2) 8月5日に実施した北部山間早植え水稻の巡回調査（16圃場）では、葉いもちの発生圃場率50.0%、発生株率11.8%（平年5.1%、前年0.5%）であり、平年よりやや多く前年より多い（図2）。
- (3) 葉いもちの発生状況は圃場ごとに異なっているが、発生株率100%の圃場も一部みられる（表1）。
- (4) 山麓部の常発地を中心に発生が多く、一部圃場ではずり込み症状がみられる。さらに、例年ほとんど発生がみられない平坦部においても発生がみられる。
- (5) 7月下旬から曇雨天が続き、感染に好適な条件が継続している。今後も曇雨天が続くと予想されているため、発病はさらに進展すると考えられる。

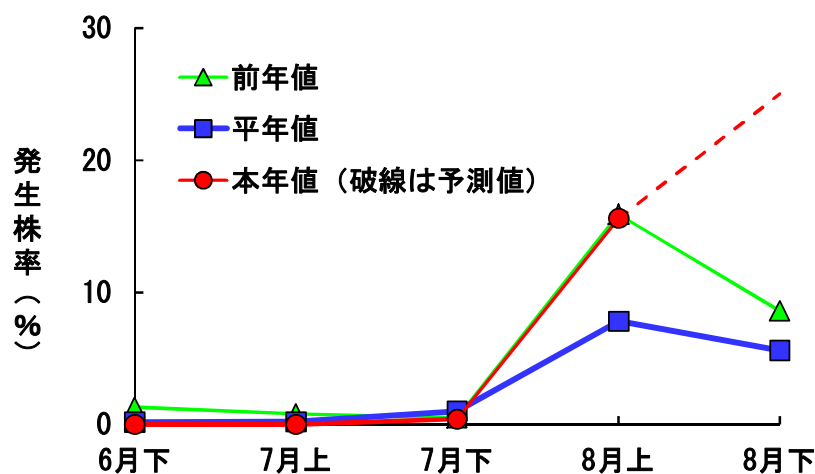


図1 普通期水稻における葉いもちの発生

表1 県内の普通期水稻調査地点圃場(48圃場)における葉いもちの程度別発生状況
(平成26年8月1～5日調査)

発病程度	発生株率(%)					
	0	4～24	28～48	52～72	76～96	100
圃場数	26	13	1	4	2	2
(圃場率(%))	(54.1)	(27.1)	(2.1)	(8.3)	(4.2)	(4.2)

注) 各圃場において、25株ずつ調査を行い、発生株率を算出。

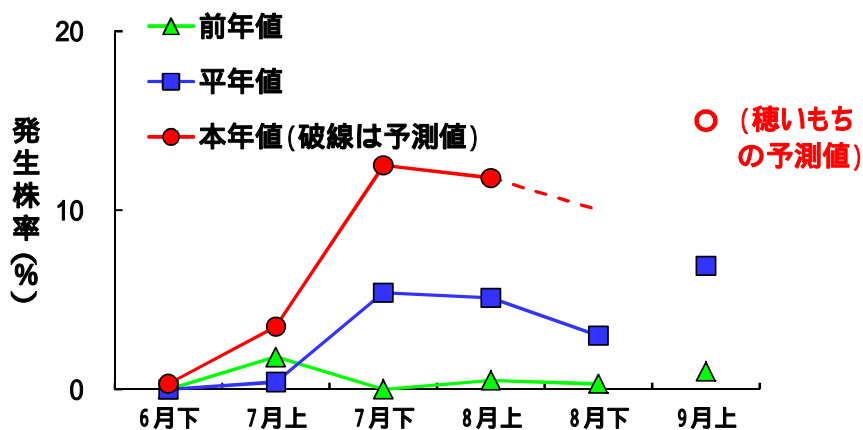


図2 早植え水稻におけるいもち病の発生

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場によって葉いもちの発生状況が異なるため、必ず圃場を見回って、葉いもちの発生状況と稲の生育状況を確認する。
- (2) 窒素過多はいもち病の発生を助長するため、適切な施肥管理を行う。
- (3) 葉いもちの進展型病斑がみられる圃場では、早急に本田防除を行う。
- (4) 葉いもちの発生がみられるほ場では、穂ばらみ期の穂いもち防除を徹底する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも防除を行う。
- (5) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連続使用は避ける。



写真1



写真2

※写真1～2：普通期水稻における葉いもちの発生（平成26年8月5日撮影）